

令和2年度 下水道への紙オムツ受入実現に向けた検討会 開催趣旨

1. 設置趣旨

人口減少・超高齢化社会を迎えるなど社会情勢が大きく変化する中、我々のライフスタイルや働き方について見つめ直すことが求められている。それと同時に、我々の日々の生活や社会活動を支える下水道システム、下水道サービスのあり方についても時代の要請に応じた新たな取組が必要となる。

「下水道・LIFE・えんじん研究会」が平成28年12月にとりまとめた報告書では、介護の現場での利便性等、高齢化社会への貢献が強く期待されるとして、下水道に紙オムツを受入れて集約処理するシステムが提案された。

国土交通省としても、平成29年8月にとりまとめた「新下水道ビジョン加速戦略」の中で、高齢化社会等への対応として、ディスポーザーの活用及び下水道へのオムツ受入れ可能性を検討することを重点施策として掲げている。

こうした動きを踏まえ、国土交通省は、平成30年1月より「下水道への紙オムツ受入実現に向けた検討会」を立ち上げ、概ね5年間で実施する「下水道への紙オムツ受入に向けた検討ロードマップ」（平成30年3月）を策定した。

上記を踏まえ本検討会においては、ロードマップに基づき、下水道に紙オムツを受入に関する社会的ニーズを把握するとともに、技術的・制度的課題への対応策等について検討・審議する。

2. 今年度の検討会の進め方

昨年度の第2回検討会において、令和2年度は「紙オムツ分離装置」の位置づけ等実際の普及に向けた制度検討、A、B aタイプの社会実験及び室内実験を踏まえた技術検討をそれぞれの分科会で実施し、検討会にて各分科会の検討結果報告、ガイドラインの全体像及びロードマップの点検を議論する予定であった。

しかしながら、新型コロナウイルス感染拡大により社会実験等に遅れが生じ、制度・技術検討の前提となる実験データの収集が一部困難であることから、令和2年度の検討会では、A、B aタイプの工場実験による排水分析や、一部社会実験、ケーススタディ等による技術検討及びこれらを踏まえた紙オムツ処理装置の技術資料の作成を中心に実施し、制度分科会は令和3年度に実施することとする。ガイドラインの全体像及びロードマップの点検は実施する予定。

3. 今年度の検討スケジュールと主な審議内容

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
検討会							①				②	
技術分科会						①				②		

① 第1回技術分科会（令和2年9月14日）

- 紙オムツの基礎情報調査結果の報告
- A、B a タイプ工場実験結果共有
- A、B a タイプ紙オムツ処理装置の技術資料案 他

① 第1回検討会（令和2年10月28日）

- これまでの検討状況の整理
- 今後の検討の進め方について 他

② 第2回技術分科会（令和3年1月開催予定）

- 社会実験等の結果報告
- 社会実験等を踏まえた紙オムツ処理装置の技術資料案 他

② 第2回検討会（令和3年2月開催予定）

- 技術分科会の検討結果報告（社会実験、技術資料案）
- 令和3年度の検討予定（制度分科会の検討項目確認など） 他

4. 検討会の公開について

- 検討会は原則として冒頭のみ公開とし、審議は非公開とする。ただし、審議の必要上、座長が必要と認める者は、審議への出席又は傍聴を行うことができる。
- 検討会の資料は原則として公表とする。ただし座長が特に必要と認める場合は、その一部または全部を非公表とすることができる。
- 検討会の議事概要は出席者の確認を取った上で公表する。
- 検討会資料及び議事概要については、検討会后、国土交通省のホームページに公表する。

以上